

## 格付会社S&Pによるメキシコの格上げについて

### 格付をBBBからBBB+に引き上げ

2013年12月19日、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)は、メキシコの外貨建て長期債務格付を「BBB」から「BBB+」へ、自国通貨建て長期債務格付を「A-」から「A」へ、それぞれ1段階引き上げました。見通しは「安定的」としました。

S&Pは今回の格上げの理由として、エネルギー分野への投資を民間に開放するための憲法修正案の可決や財政の枠組み変更によって、同国の中期的な成長見通しや財政の柔軟性が強化されたことを挙げています。

エネルギー改革は、海外を含む民間からの投資を呼び込み、メキシコの投資や経済を活性化するとともに、石油からの税収が拡大することで、財政の強化にもつながると指摘しています。

S&Pはこうした改革がもたらす具体的な効果が現れるまでには数年かかるとの見通しを示し、格付見通しについては「安定的」としました。

### 金融市場の反応は限定的

S&Pによるメキシコの格上げ発表を受けた金融市場の反応は限定的でした。12月19日のメキシコ10年国債利回りは、6.41%で前日比でほぼ横ばいとなりました。同日のメキシコペソ相場は対円、対米ドルともに前日比0.7%程度のメキシコペソ安となりました。

以上

【図1】メキシコの外貨建て長期債務格付  
(2013年12月19日現在)

格付会社	12月19日発表	12月19日発表以前
S&P	BBB+ (見通しは「安定的」)	BBB

(参考) ムーディーズ	(参考) フィッチ
Baa1 (見通しは「安定的」)	BBB+ (見通しは「安定的」)

【図2】メキシコペソの対円・対米ドルレートの推移



(注)2013年12月20日は日本時間午前10時頃の値を使用  
(出所)Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成